

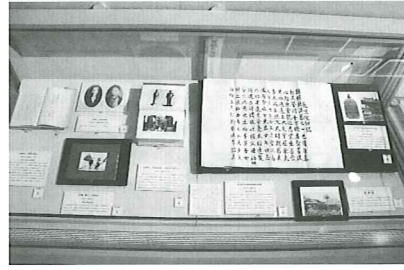


吉野作造記念館だより

〈編集・発行〉 特定非営利活動法人 吉 川 学 人

目 次

史料紹介……………1	古川中学校……………10
今年度の行事案内……2	清滝小学校……………12
第3回吉野作造研究賞	古川第四小学校……………13
受賞者講演会……………3	古川第一小学校……………14
昨年度企画展紹介……4	北浦小学校……………16
昨年度各種事業の紹介……6	古川高等学校……………16
団体見学・出前講座……8	アンケート……………17
尚綱学院大学……………8	昨年度のイベント……………18
宮崎中学校……………9	寄贈史料一覧……………20



守屋 栄夫展 2014年1月12日～4月30日

地域の先人の再評価をテーマに、大崎市古川出身の政治家・守屋栄夫（1884～1973）にスポットを当てました。守屋は内務官僚として、労働者の権利保障など福祉行政に力を注ぎました。また朝鮮総督府秘書官時代には、同郷の先輩吉野作造と共に朝鮮人による朝鮮語の新聞『東亜日報』の創刊に重要な役割を果たしています。その後衆議院議員、塩竈市長などを歴任しました。戦後は政界への復帰が叶わず、現在では地元でもその名を知る人はそう多くありません。本展示では守屋の生家に伝わる資料を中心に、故郷馬放の馬放天満宮や長照院への寄進・同郷の学生への援助などの地域貢献を通じ、古川や塩竈の住民に生涯親しまれ続けた守屋の実像に迫りました。

新 史 料

○吉野作造肖像写真

（大友玲子氏寄贈）

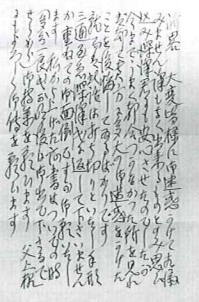
吉野作造の第二高等学校二年次在学時の肖像写真。古川で酪農などを営んだ清野亀太郎（吉野の親友清野金太郎の



従兄弟）に宛てて贈られたものです。写真の裏には、吉野の満二一歳の誕生日にあたる一八九九年（明治三二）一月二九日付で「汝のうちに真理を宿し真理のうちに汝を活かしめよ」という聖書の一節のような言葉が記されています。吉野がバプテスト派の洗礼を受けたのは前年七月のことでした。神に仕え人に尽くす決意を胸に、将来を曇りなく見据える若き日の吉野の表情をとらえた、貴重な写真です。

○福永重勝宛吉野作造書簡

（購入）



福永重勝は文化生活研究会で世話人を務めた人物で、キリスト教系出版社・警醒社の社長である福永文之助の子です。『日支交渉論』などいくつ

書店から出版活動を行うなど、吉野の出版活動には福永家が密接に関わっていました。この手紙は、吉野が福永に対して何らかの約束違いを詫言る内容です。おそらく入稿に関することと推察されます。

○吉野自筆原稿二点

（購入）

一点は『文化生活』一九二二年（大正一一）三月号所収の「書齋から読者へ」。前号の吉野記事「魂の共感」で取り上げた谷崎潤一郎からの、前号の感想の手紙や、当館所蔵史料である「吉野宛江原素六書簡」などを紹介しています。もう一点は『文化生活研究』一九二〇年（大正九）一月二月号所収の「政治に及ぼす婦人の力」です。この論文は同誌で一年にわたり連載されたもので、当館では既に二回分の原稿を所蔵しており、同論文の原稿はこれで三点目になります。（佐藤弘幸）

かの吉野の著作も警醒社から刊行されています。文化生活研究会は、銀座の警醒社本店に間借りする形で立ち上げられ、また明治文化研究会も、重勝の兄・良が経営する福永

二〇一四年一月二日、常設展の大幅入れ替えを行い、新史料「福永宛吉野書簡」「政治に及ぼす婦人の力」原稿を含む二六点を新たに公開しました。（二〇一四年四月現在）

2014年度の 行事案内

●5月5日 GW イベント

子供の日にちなんだ
楽しいイベント!



●5月25日～8月3日 企画展

「吉野作造とキリスト教」

●春季吉野作造講座(開催日時未定)

●9月5日～7日 人材育成研修会

吉野ネットワーク交流事業 人材育成研修会
若手研究者・学生の人材育成と吉野博士のネットワーク構築を目的とした合宿研修会



●7月末まで 論文募集

「第4回吉野作造研究賞」論文募集

吉野作造が後進の育成に終生取り組んでいたことに鑑みて、若手研究者の優れた研究活動を支援するために「吉野作造研究賞」を設け募集。募集要項および応募に関わる様式は当館ホームページに掲載しています。

●10月12日～12月28日 企画展

「吉野作造と賀川豊彦—大正時代の社会事業—」(仮)

●秋季吉野作造講座(開催日時未定)

●10～11月頃 講演会

「第15回 読売・吉野作造賞」受賞者による
記念講演会。

●12月中旬頃 クリスマス会

キリスト教徒である吉野博士にちなんだ歌あり、工作あり、楽しいクリスマス企画!

●1月29日 生誕記念日

吉野博士生誕137年&開館20年
生誕記念イベント



●通年募集 県内の小中学生を無料招待!!

対象 宮城県内の小・中学校

❖料金❖ 無料(授業の一環で見学の場合)

❖申込❖ 当館まで

お申込み下さい。

団体見学・出張講話

も受付中!!



●通年募集 寄附金ご協力をお願い

当館は、市民の皆さまへ民主主義の意義や吉野作造の現代的意義を広めるべく、指定管理者となってから新規事業に取り組んできております。また、時代に即した取り組みとして震災復興関連事業及び日中交流事業等を行い、館が果たすべき役割を担っています。当館の事業趣旨をご理解いただき個人・企業・団体の皆様を募集しております。ご理解とご協力の程を何卒宜しくお願いいたします。

※日程や内容など、変更となる場合がございますのでご了承ください。

第三回 吉野作造研究賞

概要



最優秀賞 趙星銀氏講演（11月17日）

吉野作造研究賞は、吉野作造が終生後進の育成に取り組んでいたことに鑑みて、若手研究者の育成と吉野の精神の継承、吉野研究の裾野の拡大という観点から、第三回から応募条件を大きく変更しました。主な変更点は、応募資格を募集年次の四月一日時点で四〇歳以下の者とし、応募作品については政治史・政治思想史等を主題とした未発表のものか、募集年次の三月末日から過去二年以内に刊行された著作・研究論文としたこと

です。若手研究者による吉野自体の研究、及び政治史・政治思想史など吉野と同じ問題関心を持つ研究が対象となるよう、門戸を広げました。なお、応募条件を満たさない研究者に対しても、『吉野作造研究』への一般投稿に関する規定を定め、同誌第九号から論文の投稿を募集しています。

今回の第三回吉野作造研究賞は、厳正なる審査の結果、趙星銀（チヨ・サンウン）氏の論文「高度成長」反対―藤田省三と「一九六〇年」以後の時代」が最優秀賞、佐藤太久磨氏の論文「国際民主主義」から「東洋モノロー主義」へ―吉野作造の国際政治思想」が優秀賞となりました。最優秀賞の趙星銀氏は韓国の出身で一九八三年生まれ、東京大学大学院博士課程に在籍中（受賞時）、優秀賞の佐藤太久磨氏は一九八二年生まれ、現職は立命館大学文学部非常勤講師。お二人とも

三〇歳前後の若手研究者であり、その作品も甲乙付けがたい力作で、吉野作造研究賞の主旨・目的からしても非常に実りあるものとなりました。選考理由については、『吉野作造研究』第九号（二〇一三年）に詳しく掲載しています。

二〇一三年十一月十七日には、最優秀賞受賞の趙星銀氏を吉野作造記念館に迎え、表彰式ならびに受賞者記念講演会を開催しました。「デモクラットであることの意味―大正デモクラシーと戦後民主主義」と題した趙星銀氏の講演は、大正デモクラシーにおける吉野作造と戦後民主主義にける藤田省三を連続的に捉えることで、「自由」と「平等」というデモクラシーの二大要件がどのようにして達成されるのかについて考えるものでした。講演会には多くの来場があり、戦後知識人としての藤田省三や、デモクラシーの時代を越えた意義について学ぶ貴重な機会となりました。この講演は『吉野作造研究』第一〇号（二〇一四年四月）に掲載されます。

最優秀賞

趙星銀

「高度成長」反対

―藤田省三と

「一九六〇年」以後の時代―

〔思想〕二〇一二年二月号掲載論文

優秀賞

佐藤太久磨

「国際民主主義」から

「東洋モノロー主義」へ

―吉野作造の国際政治思想―

〔ヒストリア〕二〇一〇年六月号掲載論文

審査委員会

千葉 眞

（国際基督教大学教養学部教授）

村井良太

（駒澤大学法学部教授）

大川 眞

（吉野作造記念館副館長、国際日本文化研究センター共同

研究員）

（以上、敬称略）

「第4回 吉野作造研究賞」募集中

- 〈応募資格〉 40歳以下の方（2014年4月1日時点）
 〈対象となる論文〉 政治史・政治思想史・文化史研究等、または吉野作造関連の研究を主題とした、未発表または2012年4月1日～2014年3月31日に刊行された著作・研究論文
 〈応募締切〉 2014年7月末日（必着）

※応募方法の詳細については当館ウェブサイトをご覧ください ⇒ <http://www.yoshinosakuzou.jp/>

企画展紹介

明治文化研究の奇人変人たち

—吉野作造・尾佐竹猛・宮武外骨—

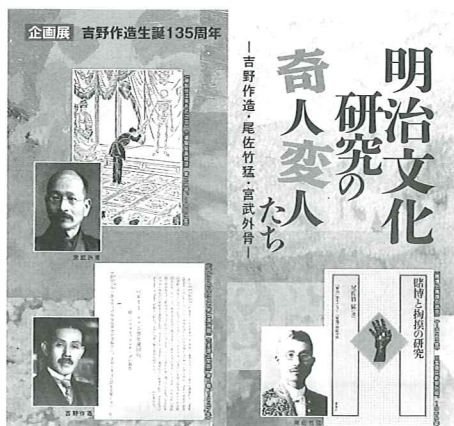
二〇一三年五月二六日～七月二八日

■共催■
 東京大学大学院法学政治学
 研究科附属
 近代日本法政史料センター
 明治新聞雑誌文庫

■企画展協賛■
 博報堂

■後援■
 大崎市
 大崎市教育委員会

二〇一三年度前期企画展では、吉野が晩年に取り組んだ明治文化研究をテーマに、ユーモアと諧謔の精神をもって権威や権力に対抗し、「文化」の意味を問い続けた「三博士」——「法学博士」吉野作造、「無用学博士」尾佐竹猛、「頓狂博士」宮武外骨らの活動とその著書、コレクションを紹介しました。



明治文化研究の奇人変人たち

—吉野作造・尾佐竹猛・宮武外骨—

の目的は、日本におけるデモクラシーの精神の可能性を、過去の歴史の中に見出すようにするものでした。

こうして始まった明治文化研究会は、吉野の幅広い人脈によって、大学人に限らない民間史学のはしりとも言うべき成果を挙げました。それとともに、関東大震災によっ

関東大震災での朝鮮人、社会主義運動家の虐殺事件を論壇で追及した吉野は、入社したばかりの朝日新聞社の講演会で不敬な発言を行ったとして舌禍事件に遭い、言論活動を暫く自粛することを余儀なくされました。吉野はこれを機

に、以前より行っていた明治文化の研究を本格化します。そ

て散逸した歴史資料の蒐集、保護というもう一つの目的、また古書店めぐりの趣味等も相まって、多士済々の好事家たちによる不可思議で面白おかしい明治文化の世界が発掘されていったのです。

尾佐竹猛は判事登用試験に最年少で合格し、大審院（現在の最高裁判所）の判事も務

めた法律家のエリートでありながら、明治憲政史の研究者でもあり、それも文化的な視点から憲政史を考える変り種でした。尾佐竹みずからスリ（掏摸）の実験まで行つて研究した、「賭博と掏摸の研究」など、法律社会の裏側にある文化を探求しました。



宮武外骨はジャーナリズムに志を持ち、諧謔と反骨の精

神で当時の権力者や社会悪をユーモアを交えて「筆誅」する言論人でした。宮武の蒐集癖によって集められた史料群は、後に東京大学に設立された明治新聞雑誌文庫のベースとなります。

明治文化研究会の成果は、官学に依らない民間の歴史学研究の先駆けであり、蒐集された膨大な資料群は明治新聞雑誌文庫として東京大学に収められ、今日でも近代史研究の貴重な資料として活用されています。

五月二六日に行われたオーピング講演会では、堅田剛・獨協大学法学部教授から「明治文化研究会の三博士——『西哲夢物語』をめぐる」と題した講演を賜りました。

吉野が明治文化研究を志した直接のきっかけとなったのは、一九一八年（大正七）の国家学会創立三〇周年で、明治憲法制定時の内部事情を、その重要関係者である伊東巳代治に証言してもらおうと試みたものの果たせなかったという出来事でした。伊東に拒絶された吉野は独自の文献調

査を試みますが、やがて大学近くの古書店で『西哲夢物語』なる不思議な書物を発見します。講演では、歴史研究に賭ける吉野の意志とロマングセラモニーは盛会となりました。本講演は『吉野作造研究』第一〇号（二〇一四年）に掲載されています。

なお本企画展では、明治文化研究とも関わり、明治新聞雑誌文庫設立にも携わった瀬木博尚氏を紹介するコーナーを設けました。瀬木博尚氏は大手広告代理店として知られる博報堂の創設者であり、近代日本の報道メディア、広告業の発展に多大な貢献をした人物です。宮武外骨と旧知の仲であった瀬木氏は、明治新聞雑誌文庫の創設にあたり資金を提供しました。

本企画展開催にあたり、共催団体である東京大学大学院法学政治学研究科附属明治新聞雑誌文庫様に展示資料の面で多大な協力を、博報堂様からは企画展協賛を、東京大学出版会顧問の竹中英俊様から多大な協力を頂きました。

企画展紹介

吉野作造と近代中国

二〇一三年一〇月二七日～一二月二八日

■共催■
東北大学史料館

■後援■
大崎市
大崎市教育委員会

吉野作造はある随筆で「政治学の議論は実は不得意で、得意とするのは中国論である」と記しています。当時、まさに現在進行形で日々情勢が動いていた中国革命運動を分析する『支那革命小史』など、当時の中国情勢に対して卓越した分析眼を示しました。本企画展では、そうした吉野の中国革命史研究、そして、それを支えた中国革命運動家との交流の様子を紹介しました。



吉野は、東京帝国大学卒業後に、清王朝末期の権力者・袁世凱の長男の家庭教師として中国に渡り、その後、天津の北洋法政専門学堂で教鞭を執るなど、中国と浅からぬ縁がありました。

帰国後、東京帝大で職に就いた吉野は、頭山満等に依頼されて中国革命史の研究を開

始、その中で多くの若い中国人の革命運動家たちを紹介され、交流を持つようになります。彼らを通じて孫文・黄興という中国革命の二大巨頭双方とのパイプを確保し、リアルタイムで情報提供を受けて行われた吉野の中国革命史研究は、中国における新たな青年世代の台頭を正確に把握し、デモクラシーの精神において日中両国の将来的な連携の可能性を見出そうとするものでした。

青年世代との直接的な交流を重視する吉野は、第一次大戦、五・四運動を経て新たな局面を見せ始めた日中関係にあつて、李大釗(り・だいしよ)など両国連携の可能性を

模索する人々と新聞雑誌を介して連絡を取り、両国友好関係の発展を望む世論を喚起すべく積極的な言論活動を行いました。吉野と李大釗の連携は、やがて北京大学と東京帝国大学の間での学生交流事業



近代という時代の中で、揺れ動く日中関係に悩み、ときに振り回されながらも、学問と交流を求めて生き生きと活躍した中国人留学生達が紹介されました。本講演は『吉野作造研究』第一〇号(二〇一四



永田英明氏講演 (10月27日)

として展開していきます。

企画展中では「黄興とその同志達の寄せ書き」など、吉野作造記念館の所蔵資料中에서도とりわけ貴重な資料を数多く公開することができました。

一〇月二七日に行われたオープンニング講演は、東北大学史料館の永田英明准教授から「学都仙台と中国人留学生」と題した講演を賜りました。

年)に掲載される予定です。

また本企画展では、「宮城県の日中交流史」として、中国近代文学の父とされる魯迅と周樹人をはじめ、中国現代数学の基礎を築いた蘇步青、陳建功といった東北大学への留学生、また大衡村出身の佐藤をとみ・みさを姉妹と結婚した郭沫若、陶晶孫など、宮城県との深いかわりを持つ中国知識人の実績を紹介したコーナーを設けました。これらの展示資料については、共催の形で事業協力いただいた東北大学史料館様に、多大なご協力を頂きました。

・2014年1月12日より

常設展示室
大幅入れ替え

新史料含む26点を新たに展示

■ 日中文化交流シンポジウム ■

吉野作造と近代中国

〈NPO事業〉

2013年8月2日・3日

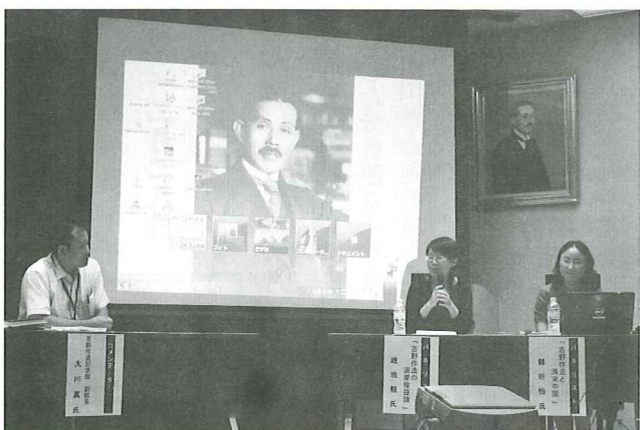
吉野作造記念館では、八月二日・三日に「東アジア交流事業」として、日中文化交流シンポジウム「吉野作造と近代中国」(NPO法人古川学人主催)

を開催しました。中国側からは北京外国語大学日本学研究センターの郭連友教授をはじめ一三人の先生方が来日、二日間にわたって両国の研究者六名による研究発表・講演が行われました。郭連友氏の来日・来館は今年二度目(大崎の「宝」II「人」プロジェクト講演会「中国における震災報道と日本イメージ」、二〇一三年一月二六日)となります。

初日は研究発表として「中国「近世」イメージ再考―明代政治史研究の可能性」(高橋亨氏)、「清朝末期における中国の日本人」(水盛涼一氏)、「吉野作造と中国の革命家たち」(郭連友氏)、「中国における倫

理学の成立と日本思想との交流」(龔穎氏)の各発表。二日目はシンポジウム形式で、中国における吉野作造研究者である趙曉靚氏、銭昕怡氏をパネリスト(それぞれ「吉野作造の満蒙權益論」、「吉野作造と清末中国」)、吉野作造記念館副館長の大川真をコメンテーターとして活発な議論が行われました。

初日の夜には交流会も開催され、一般参加者も含めた食事会の時間が持たれた他、当日は古川の花火大会でもあり、屋外に出て参加者一同で花火鑑賞するなど貴重な時間を過ごすことができました。



■ 第7回吉野ネットワーク交流事業 ■

人材育成研修会

2013年8月30日～9月1日

吉野作造を通じて全国的な人的ネットワークの構築を目指して始まった人材育成研修会。講師は「読売・吉野作造賞」を受賞した先生方を中心に、毎年一流の講師と、多くの学生が参加します。三日間にわたって行われる活発な議論・討論をはじめ、講師と学生の交流の場を設けています。将来の日本をリードする人材育成と交流の集いは、今年で七回目を数えました。

第一次世界大戦勃発がちょうど一〇〇年になる今年は、テーマを「吉野作造と第一次世界大戦」とし、京都大学、慶應義塾大学、駒澤大学、東北大学の学生一五人が参加、初日にはヤン・シュミット氏(ポーランド大学専任講師)による基調講演「第一次世界大戦下における日本の戦争経験と将来に対する期待」が一般公開で行われました。シュミット氏の講演は、日本でも様々なメディアを介して第一次世界大戦が経験され、それが戦後の世界に対する様々な期

待や想像力、また危機感を作りだしたことを論じました。

場所を中新田交流センターに移した二日目には、奈良岡聰智氏(京都大学大学院法学研究科准教授)による講義「『欧州大戦』の記憶―第一次世界大戦と日本人」、清水唯一朗氏(慶應義塾大学総合政策学部准教授)の近著『近代日本の官僚―維新官僚から学歴エリートへ』(中公新書、二〇一三年)の書評会、吉野作造記念館に戻った三日目には恒例の成果報告会が一般公開で行われました。

ヤン・シュミット氏の基調講演は『吉野作造研究』第一〇号(二〇一四年)に掲載予定です。



■ 夏 休 み ■

自由研究サポートし隊！

2013年8月6日～9日

吉野作造

記念館の学

芸職員が、

その知識と

ノウハウを

生かし、小

学生の皆さ

んの夏休み

自由研究を

全力でサ

ポートする

という企画

「夏休み自

由研究サ

ポートし隊！」。当館ではこういったイベントは初の試みでしたが、大崎市内の小学生五人が参加してくれました。

サポートする自由研究の対象は、「明治・大正・昭和時代の大崎市の歴史」や「大崎市出身の偉い人」、あるいは「明治時代や大正時代の歴史」についてというものでしたが、皆さん小学生らしい、自由な発想で様々なテーマについて調べてくれました。中には、四日間では飽き足らず、その後も当館に通って研究を完成させた、とても熱心な児童もいました。

皆さんの力作は、その後当館にてパネル化して展示しました（現在は終了）。参加してくれた小学生の皆さんと、研究テーマは次の通りです。

● 古川第五小学校六年 荒木 優太くん
「4号線パイパス付近の田んぼの開発」

● 川渡小学校六年 高橋 佳央くん
「原子爆弾について」

● 古川第二小学校五年 菊地 千愛さん
「吉野作造について」

● 古川第四小学校四年 若見 明珠さん
「吉野作造さんのこと」

● 古川第四小学校二年 若見 桃花さん
「吉野作造さんのすきなもの」

近い将来、彼らの中から吉野に負けない立派な研究者になる人が出るかもしれません。楽しみです。

■ 平成25年度 ■
博物館実習

2013年9月10日～14日

今年度、当館では五人の博物館実習生を受け入れました。史料保護・展示解説から、受付業務の実習まで、記念館の業務を幅広く学んでもらいました。

また、当館では例年博物館実習において、実習生自身で企画・解説キャプション作り、史料の配置まで行ってもらった「ミニ企画展」という実習を課しています。今年のテーマは「民衆の自立—社会事業としての賛育会・平和村—」というものでした。関東大震災時、吉野は無償医療の運営団体・賛育会の理事長に就任します。会の立て直しと被災者支援の指揮を執った吉野は、賛育会の活動を「慈善事業」から「社会事業」へ切り替えていくことを目指しました。無償での奉仕活動から、人々が自ら労働して居を構え、独立していくことを支援する活動へと舵を切ったのです。そうした活動の中心が、授産事業と一体となった被災者住宅「平和村」の運営でした。残念ながら平和村運営

自体は失敗に終わりましたが、吉野が道筋をつけた「社会事業を目指すべし」という方針は、現在に至るまで社会福祉法人賛育会の基本的な活動理念となっています。



「震災」という、実習生達自身にとっても生々しく記憶に残るテーマに果敢に挑戦し、時宜を得た展示となりました。

実習を振り返って

東北学院大学 今野 恵理子さん
この五日間の博物館実習を通して、記念館での様々な学芸業務はもちろんのこと、東北歴史博物館への見学実習や大崎市田尻での発掘実習など、非常に多くの貴重で有意義な体験をすることができたと感じています。特に5日間をかけて完成させたミニ企画展は、事前に頂いていたテーマを自分たちで膨らませつつ、吉野が人びとに寄せた「自立への信頼」というものをいかに展示の中で伝えるかということに念頭に置きながら、最後まで妥協せず実習生一丸となって取り組むことができたかと思えます。

団体見学・出張講演

▼前年度末の二〇一三年三月九日、東北大学で行われたシンポジウム「関東大震災と近代日本のリーダー」に当館も参加しました。関東大震災から九〇年という節目に、当時各界のリーダー達がどう行動したかに焦点を当て、東日本大震災復興への示唆を得ることが狙いの本シンポジウム。それぞれ「政界」の後藤新平を御厨貴・放送大学教授、「財界」の渋沢栄一を見城佛治・千葉大学准教授、そして「思想界」の吉野作造を大川真・当館副館長が論じ、全体討論に五百旗頭真・元東日本大震災復興構想会議議長が参加しました。

大川副館長は「吉野作造と佐野利器」と題し、吉野の賛育会運営の他、米沢出身の建築家で帝都復興院建築局長・佐野利器を紹介しました。吉野と佐野は二高の同期であり、黎明会や文化生活研究会など様々な局面で活動を共にしました。大川副館長は、二人が復興にあたり専門分野は違えど、共に貫徹した次世代倫理に基づく「文化生活」の実現を目指していたと指摘しました。

▼七月二日には、古川ロータリークラブにて、当時開催中の企画展と同じ「吉野作造と明治文化研究」というテーマで講演を行いました。

▼八月九日、大崎市議会議員の方々を対象とした勉強会にて「日本国憲法と地方政治」と題して講演しました。

▼九月二日には、大崎市内の団体「吉野博士を学ぶ会」の第二五〇回記念講演会で「吉野作造と中国および現在の中国について」という講演を行いました。日中の広い人脈を元に、中国

革命展開の構造を正確に見抜いた吉野の中国論を紐解きながら、現在に至るまでの日本の中国理解の問題を指摘していくものでした。

▼一〇月三〇日には、大崎地域広域行政事務組合教育委員会主催の「パレット歴史講座」にて、「近世大崎地方の学問・教育」と題した講座を行いました。旧有備館の教育システムや、田尻出身の思想家・齋藤竹堂を紹介しました。

▼十一月一日には河合塾大宮校で「大正デモクラシーの旗手・吉野作造とは」という講演を行いました。投票率の低さなど現代民主主義の問題点を指摘しながら、「民本主義」を主張した吉野の現代的意義を説きました。聴講した予備校生からは、社会や国に貢献できる人間になりたいとの決意を新たにされたとの声も聞かれました。

▼十一月二日には専修大学で行われた「関東大震災九〇周年記念シンポジウム」大正デモクラシーもう一つの可能性―吉野作造・賀川豊彦・末弘厳太郎をめぐって―での講演「吉野作造の『民本主義』再考―吉野の考える民衆の政治参加とは―」では、吉野の民本主義論の根幹が参政権の確立にあったことを指摘し、また吉野が公正な代議政治を根付かせるため、年少時から政治教育を主張していたことを紹介しました。

▼年が明けて二月二五日には、宮城県社会福祉協議会主催の宮城いきいき学園にて「吉野作造から日中友好を学ぶ」と題した講演を行いました。

(以上全て講師・大川 真)

吉野作造講座

◆春季(四月・五月)

吉野作造と明治文化研究

―吉野さんは奇人変人?―

(全四回)

吉野の明治文化研究の中で、珍妙な研究・関心にスポットを当て、その意義について吉野の論説を精読しながら考察していく内容でした。

◆秋季(十一月・十二月)

吉野作造と近代中国

(全四回)

幕末・明治からの日本人の中国観を紐解きつつ、吉野の中国観の成熟過程を明らかにしていきます。



中国観の成熟過程を明らかにしていきます。また、批判的文脈で引用されることの多い『日支交渉論』中の「二一カ条要求容認」論の真意を探りました。

吉野作造記念館では、見学に来てくださる学校や団体のお客様向けに、オリジナルの見学プランをご用意いたします。また、出張講演・講座も受け付けております。詳しくは当館までお問い合わせください。

尚綱学院大学見学会

(二〇一四年一月二日)



尚綱学院の創立者であるアンネ・サイレーナ・ブゼル先生について学ぶ授業の一環で、子ども学科の二〇名の学生の皆さんが来館してくれました。

見学の感想

一年 高橋美佳子さん

吉野作造はブゼル先生のバイブル・クラスに入っていたことは知っていたが、このバイブルクラスが後の大正デモクラシーの担い手となつたと初めて知った。一九一六年から民本主義の考えを発表し、この論文は反論されたり、一部分を攻撃されたりしたが、共感するものもあらわれたおかげで「民本主義」が広まっていたのだと感じた。

宮崎中学校見学会

2013年11月1日

11月1日、加美町立宮崎中学校の三年生の皆さんが見学に来てくれました。三年生では現在、公民の授業を行っているということもあり、見学の中で当館の大川真副館長による「民主主義」をテーマとしたミニ講演が行われました。また、講演や見学を元に、吉野作造と民主主義について考えてもらうワークシートに取り組んでもらいました。難しい内容でしたが、皆さん熱心に話を聞き、見学し、考えてくれました。そのワークシートの設問と答えを、一部ご紹介します。
(全文は記念館にてご覧頂けます。詳しくは受付にお尋ね下さい。)



Q1 「自由で平等な選挙」 UN・YUN・SUN・JUN・KUNかな？

男女同じように、皆同じ歳で、お金や権力、身分に関係なく意見を取り入れて選挙というかたちで参政をすることができると選挙だと私は思います。

(板垣 純花さん)

国民一人一人が選挙に参加して、そして、一人一人の意見も取り入れながら国民のみんなの自由な意見を口に出してみんなの納得のいく選挙。(加藤すみかさん)

すべての選挙権がある者が自由に投票して、自分の意見だけ、考えだけで、周りの人にとらわれずにいれること。(小野寺綾斗さん)

自分が思う、やりたいことを主張でき、ひいきなどなしに行える選挙のこと。(高橋 美幸さん)

一人一人の意見を尊重できる選挙。(鈴木 遥奈さん)

誰でも選挙権があり自分が思う考えの人に投票できる選挙。(後藤明日香さん)

Q2 なんで「自由で平等な」 選挙できないの？ 民主主義が 実現できないのかな？

皆の意見を取り入れずに、一部の国民の意見しか取り入れないから。(柳澤 一希さん)

一人一人が幸せに暮らせず、一人一人の意見が反映されないため。(畠山 大雅さん)

民主主義は、政治は国民をもとにするから、「自由で平等な」選挙じゃないと、一部の人だけで決めてしまうから。(竹中新太郎さん)

国民が主権者なのに、選挙に参加できたり、できなかったりすると、意見も有力な人のものしか出てこないから。みんなで意見を言えることが民主主義。(文屋夕佑華さん)

「政治の目的は常に国民」であるから、国民が意見を通せない選挙では、民主主義ではない。(早坂亜美紗さん)

富をもつ人のみに選挙権を

あたえれば、投票した人たちのいいようにしかならず、貧しい人の意見はみじんもとりにいれられない。その時点で、民主主義の要である主権は国民にある、という部分が完全に不平等な形できちんとおこなわれているから。(高嶋 葵さん)

Q3 どうして吉野さんは危 険を顧みず「言論への暴力」 を厳しく批判したんだろう？

暴力で解決するより、言論で解決する方が正しいと信じていた。(渋谷 健斗さん)

なんでも暴力で解決していたら、これからの日本の未来には暴力での解決方法しか残らないから。(澁谷 颯さん)

自分の意思や考えを暴力で批判されたりするのは、本当の政治とかになんないから。(本間 叶恵さん)

どんなことでも暴力はいけないこと。(早坂 優加さん)

批判はたしかに危険なことだったけれど、危険をおかしてでも自分が行動しなくては何もはじまらないし、

変わらないと思ったからではないかと思った。(高嶋 葵さん)

暴力で解決できないことがあるから。自分の気持ちを言葉であらわさないと誰もわからないから。(佐々木 葵さん)

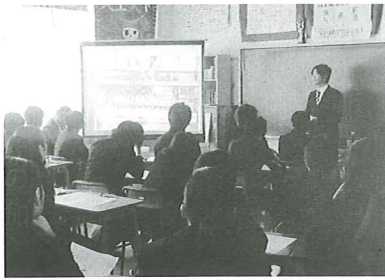
人には言論への自由があると考えていたから。(鎌田 恵さん)

自分の信念や、人々の自由な言論・学問を守ろうとする強い気持ちを伝えたい。批判したり、皆と反対の意見を言うというのは勇気がとてもいることなので、すごいと思いました。(板垣 純花さん)



古川中学校自主公開研究会

2013年11月29日



「志教育」に熱心に取り組む古川中学校は、当館と共同で、吉野作造を題材とした自作の道徳の教材を作成しました。11月の自主公開研究会で、この教材を用いた公開授業が行われました。また同日、当館の大川真副館長が、二年生の公開授業に他18名の方々と共に講師として参加しました。そちらも合わせてご紹介します。

道徳の時間(二年二組)

「吉野作造の生き方に学ぶ」

担当 鈴木 陽大先生

吉野作造の生涯、特に関東大震災での取り組み(被災者支援・賛育会事業・横行する暴力行為への批判)を中心に学び、吉野の活動の背景にあった思いを考え、信念を持って行動することの大切さを学んでもらうという内容でした。以下、生徒の皆さんのワークシートを一部ご紹介いたします。

① 吉野はどんな思いで、行動し続けたのか

● 吉野自身も被災者であったが、これまで吉野が大槻文彦など周りの人に支えてもらったことを思い出し、自分も誰かの役に立ちたいと思ったのではないか。

(岩淵 黎さん)

● 自分の町がいち早く復興し、また建物や町全体だけが復興するのではなく、町の一人一人の心が早く復興するようにと願って、行動し続けたと思う。

(針生 美夏さん)

② 吉野が自らの危険もかえりみず、朝鮮人や運動家への暴行・虐殺事件を批判し続けたのは、なぜか。

● 吉野が本当の意味で優しい

人間だったからだと思っています。吉野は人の痛みを分かっている、少しでも多くの人の誤解を解き、自分以外の誰かを救いたかったんだと思います。

(佐々木恒輝さん)

● 同じ日本国民が誇りや他者への優しさを忘れて、何の根拠もないデマにのせられてしまふという事に怒りと悲しみを覚えたのだと思います。人として本来あるべき姿をもってほしかったのではないかと思います。

(齋藤 萌絵さん)

● これまでたくさんの人に支えられた、助けられた周りの人達の大切さを知っているから「自分が朝鮮の人だったら…」というのも考えることができた?

(鎌田 莉穂さん)

③ 今日の授業を通して、考えたこと、感じたことを書こう。

● 「常に正しい道を求めて、その正しい道に向かうためには自分がどんな行動をすればよいのか?そんなことをちゃんと考えながら生きなさい」というのが吉野さんが伝えたかったことなのかな、と思った。私もこれからは、ちゃんとした将来や、被災地を復興させるためにどんなことができるかを考えて生きていきたい。

(野島 菜々さん)

総合的な学習の時間(二年生)

「『政治学』っていったい何だろう?」

講師 大川 真

地域で働く多様な社会人から「働くこと」「人生体験」「社会貢献」について話を聞き、対話を通じて将来の職業や生き方について考えてもらう「キャリアアポスターセッション」という授業。大川副館長は「政治学」および「学者」とは一体何かをテーマに授業を行いました。「政治学」では社会成員の平等や公正さ、また「民主主義」の内実や実現の難しさを、ゲームをしながら説明しました。



☆授業を通して学んだこと

政治を学ぶことで私達の将来について考えることができました。大川さんは、選挙に参加する若者が少なく、民主主義はめんどうだから必要ないという考えの若者もいると言っていました。これからの日本の中心になる人々が政治に参加しないのは愛国心がなく淋しいことだと思いました。

一方で、大川さんのように国の為に貢献したいと動いている人もいれば、選挙に参加できない中高生が被災地で活動している団体などもあります。私達はこれからの日本の中心です。自分の国のことに興味と考えを持つことが大川さんの話を聞いて大事だと思いました。政治について詳しく分かりやすく教えてもらい、将来についての視野や考え方が広がりました。キャリアアポスターセッションでは学ぶことがたくさんでき、よかったです。

—自分が今すべきこと

大川さんは政治は国だけじゃなく、家族、学校、地域、県民など共同生活の中で生まれると言っていたので、まずは家族や学校などの集団生活での政治を大切にしていきたいです。

(二組 白坂 鞠花さん)

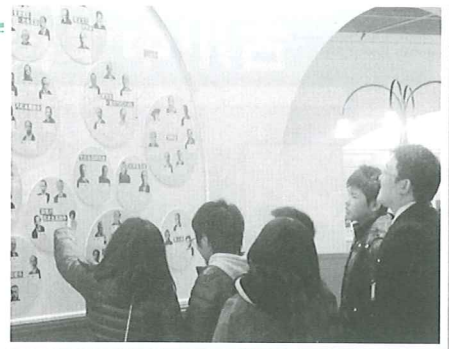
清滝小学校見学会

2013年11月26日

11月26日、大崎市立清滝小学校の六年生の皆さんが見学に

来てくれました。どの生徒さんも熱心に説明に耳を傾け、見学してくれました。また、吉野作造や大正という時代についてなど、難しいところをしっかりと予習してきてくれたのも感心でした。合わせて清滝小学校の歴史についても、写真を見ながら勉強してもらいました。

見学会の後、清滝小学校の皆さんから、丁寧に心温まる沢山の嬉しいお手紙を頂きました。その一部をご紹介します



今の社会の基礎を作った人

私は、吉野作造さんの名前までは分かりませんが、業績が分からなかったのです、すごく役に立ちました。それと同時に、現代の社会の基礎を作った人が古川にいるという嬉しさを覚えました。社会科の学習で吉野さんのことが出てきたら、今日習ったことを生かしたいと思います。本当にありがとうございます。どうぞ自愛ください。

(菊地 美桜さん)

私が印象に残ったことは、吉野作造は政治にかかわりがあつたり、現在の政治のきそをつくつたりしたこと。私は吉野作造さんのことを知って古川にも、こんなにすごいことをした人物がいたんだなと思いました。それに、最後には清滝小学校の歴史を少し紹介してくださって、昔のことがよくわかりました。どうかかせなどひかぬようにご自愛ください。

(阿部 愛花さん)

ぼくは、お話を聞き今までは吉野作造さんの名前は分かっていただけなのですが、何をしで有名になったのか分かりませんでした。でも話を聞きよく分かりました。展示品をみて分からないとき教えていただき分かりやすかったです。身体に気をつけてお過ごしください。

(千葉 成克くん)

大正時代に興味!

私が一番印象に残ったのは「大正時代」についてのお話です。私達が社会科で勉強した明治時代とは、異なる考え方があり、大正デモクラシーなどのことがあったということとをくわしく知れたことです。見学の方でも、国名の中にある帝国などはなにかなどをくわしく教えていただきありがとうございます。これからもお仕事頑張ってください。

(高梨 彩さん)

吉野さんは近所だった!

私が一番印象に残ったのは、

は、作造さんが十日町で生まれたということ。お母さんの実家がそこから近く、作造さんが生まれ育った家の前をなげなく通っていたので話を聞いてびっくりしました。

今日、教えていただいたことを勉強に生かしたいです。本当にありがとうございます。

(遠藤 葵さん)

私の心に残ったことは、吉野作造がすごく近い所に住んでいたことです。最初十日町だといわれてどこだかよく分からなかったけど、黄色のポストだといわれやっと分かりました。みんなが理解できました。みんなで教えたばかりです。ありがとうございます。

吉野家にビックリ!

私が一番印象に残っているのは、吉野作造さんの実家のことについてです。成績が良かったときはお小遣いをもらえるのに、そのお小遣いを、自分の好きなように使えないなんて、気の毒だなあと思

いました。

それと、清滝小学校の歴史では、私が知らないことばかりで、すごく興味がわきました。もっと調べてみたいです。

(高橋 愛さん)

一番びっくりしたことは、十二人兄弟の三番目に生まれていたということ。そんなに兄弟がいて、けんかなどが多かったのかなと思いました。

最後になりますが、お体に気をつけてがんばってください。

(高橋 慎也くん)

昔の人の名前がスゴイ!

展示室を見学して印象に残ったことは、昔の人の名前です。特に(島地)雷夢さんと(宮武)外骨さんの名前にはびっくりしました。今日の見学で、吉野作造さんのこと、またその時代のことがよく分かりました。

寒い日が続いていますので、かせなどをひかぬよう、どうぞご自愛下さい。

(伊勢 広さん)

古川第四小学校見学会

2013年11月29日

大崎市立古川
第四小学校の
六年生の皆さん

は、吉野作造記念館に隣接する祥雲閣でのお茶体験と合わせ、歴史と文化を学ぶという内容の授業で来館してくれました。感想のお手紙を一部ご紹介します。(誌面の都合上、一部しか紹介できませんが、記念館で全員分ご覧頂けます。)



地域の歴史に興味津々!

年表の前で説明してもらったり、スクリーンを見ながら昔の古川を見たりして、古川には、こんなにすごい人がいたんだ、どうれしく思いました。また、古川の今と昔の映像を見たとき、まったく違う風景だったので、びっくりしました。また行きたいと思いました。(二組 松岡 優芽さん)

先日は、お忙しい中、吉野作造について丁寧にご説明していただき、ありがとうございます。そのおかげで、新しく色々な事を学びました。また、地域の歴史や伝統に対する意識が一層に高まり、理解を深める事ができました。

これからは、地域の歴史を知った上でさまざまな事を学んでいきたいと思っております。本当にありがとうございます。(二組 早坂愛結花さん)

吉野さんに興味津々!

今回の見学では、吉野作造の生い立ちなどがよくわかり、とても貴重な体験をさせていただきました。今度近くに行った時は、資料をたくさん

見ようと思います。

(二組 大和 凌くん)

記念館に行くのは初めてでしたが、吉野作造の資料がたくさんありとても勉強になりました。

シアターでは、昔から今に近づいてきていること、吉野さんが関東大震災に関係していることが分かりとてもよかったです。(二組 佐々木玲菜さん)

吉野作造さんは、大正年間を中心に活躍した方だと知り、同じ宮城県民として誇りに思います。この度は本当にありがとうございます。(二組 門間 水音さん)

吉野作造博士の生涯について知る事ができてよかったです。私が見ておどろいたのは、展示室にあった手紙の字がとてもきれいだっただ事です。吉野博士のお母さんの教育の御蔭だという事です。今度もし機会があればまた見学に行きたいと思えます。(三組 松尾理瑛さん)

私は今まで「吉野作造」っ

て何をした人?とずっと思っていたのですが、今回、見学させていただくことによつて、「民本主義」など、吉野作造がやっていたことをとても分かりやすく説明してもらい、おかげで、良く学ぶことができました。それに、黄色のポストのあるところが生まれたときいてとてもびっくりしました!吉野作造記念館には、行ったことが

あったのですが、今回の展示ではとても興味ぶかい学習ができました。本当にありがとうございます!(三組 平澤 ゆいさん)

政治に興味津々!

今日は、吉野作造記念館を見学させていただきました。ありがとうございます。造さんのことをあまり知っていませんでしたが、日本の選挙のしかたをかえる考え方や、母の厳しい教育で字がきれいになったなど、たくさん知ることができてよかったです。今日は、お忙しい中たくさんのお話を教えていただきありがとうございます。(二組 小野寺晴香さん)

吉野作造記念館の皆さん、今回は、ありがとうございます。そのおかげで、吉野作造さんが「今の日本の政治の元を作った」など、吉野作造さんが、どれだけ日本のためになったか、よく分かりました。本当にありがとうございます!(三組 佐藤はずきさん)

めざせ、吉野作造!

特に吉野さんの子供のころについて調べたことが心に残りました。古川の偉大な先輩、吉野さんを目標とし、これからがんばっていくように思いました。ありがとうございます。(二組 佐々木晴菜さん)



古川第一小学校見学会

二〇一三年十二月六日

大崎市立古川第一小学校は吉野作造の母校でもあります。今回の五年生対象の見学会では、主に吉野の事績の他、古川の街の古写真や、吉野の恩師・細川松三郎先生など古川一小との繋がりを中心とした説明を行いました。児童の皆さんは、母校の大先輩である吉野について一生懸命に調べ、新聞を作ってくれました。これらの新聞は、記念館受付近くにて展示しています。ぜひ直接、じっくりと読んでみてください。

吉野作造

新聞

吉野作造は、国民主義を唱え、政治を変革しようとした。その理想は、国民の幸福と国家の発展にあった。彼は、多くの困難を乗り越え、日本の未来を築いた。

吉野作造は、国民主義を唱え、政治を変革しようとした。その理想は、国民の幸福と国家の発展にあった。彼は、多くの困難を乗り越え、日本の未来を築いた。

吉野作造は、国民主義を唱え、政治を変革しようとした。その理想は、国民の幸福と国家の発展にあった。彼は、多くの困難を乗り越え、日本の未来を築いた。

五年一組 重高遼汰くんの新聞
政治の変化を分かりやすく描いた漫画がすごいです。

吉野作造

新聞

吉野作造は、国民主義を唱え、政治を変革しようとした。その理想は、国民の幸福と国家の発展にあった。彼は、多くの困難を乗り越え、日本の未来を築いた。

吉野作造は、国民主義を唱え、政治を変革しようとした。その理想は、国民の幸福と国家の発展にあった。彼は、多くの困難を乗り越え、日本の未来を築いた。

吉野作造は、国民主義を唱え、政治を変革しようとした。その理想は、国民の幸福と国家の発展にあった。彼は、多くの困難を乗り越え、日本の未来を築いた。

五年二組 平地 舞乃さんの新聞
かわいい絵や見出しが効果的に使われた新聞です。

吉野作造を調べました！

吉野作造

新聞

吉野作造は、国民主義を唱え、政治を変革しようとした。その理想は、国民の幸福と国家の発展にあった。彼は、多くの困難を乗り越え、日本の未来を築いた。

吉野作造は、国民主義を唱え、政治を変革しようとした。その理想は、国民の幸福と国家の発展にあった。彼は、多くの困難を乗り越え、日本の未来を築いた。

吉野作造は、国民主義を唱え、政治を変革しようとした。その理想は、国民の幸福と国家の発展にあった。彼は、多くの困難を乗り越え、日本の未来を築いた。

五年一組 長谷川 侑那さんの新聞
大切なところを丁寧にまとめてくれます。

男、吉野作造

新聞

吉野作造は、国民主義を唱え、政治を変革しようとした。その理想は、国民の幸福と国家の発展にあった。彼は、多くの困難を乗り越え、日本の未来を築いた。

吉野作造は、国民主義を唱え、政治を変革しようとした。その理想は、国民の幸福と国家の発展にあった。彼は、多くの困難を乗り越え、日本の未来を築いた。

吉野作造は、国民主義を唱え、政治を変革しようとした。その理想は、国民の幸福と国家の発展にあった。彼は、多くの困難を乗り越え、日本の未来を築いた。

五年一組 平塚 大貴くんの新聞
勢いのある見出しと文章が目を引きます。男！

わたしたちの先輩はい	吉野作造について	吉野作造の生活	7人の子供ができました。
吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、
吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、
吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、

五年三組 相澤 悠衣さんの新聞
項目別にきれいにまとめた分かりやすい新聞です。



わたしたちの先輩

吉野作造新聞	吉野作造の生活	吉野作造の生活	吉野作造の生活
吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、
吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、
吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、

五年二組 當摩美唯菜さんの新聞
キリッとした吉野が印象的な硬派な新聞です。社説も必読。

吉野作造新聞	吉野作造の生活	吉野作造の生活	吉野作造の生活
吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、
吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、
吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、	吉野作造は、大正時代の人で、

五年三組 恵比寿莉沙さんの新聞
人物像や生活を中心に、明るくかわいくまとめました。

北浦小学校見学会

2013年11月28日

美里町立北浦小学校六年生の皆さんの

見学会では、吉野作造の業績や「民本主義」とは何か、大正時代の風景などを、写真を用いながら説明しました。生徒の皆さんは、吉野や、地元の偉大な先輩たちに、大いに関心を持ってくれたようです。ここで、頂いた感想文の一部を紹介させていただきます。



吉野作造記念館を見学して

吉野作造さんは、生涯ずっと民本主義と主張していて、国民の自由を願っていたんじゃないかなと思いました。

それに、1922年に出版した論文は、国や軍を批判するくらいの論文なのですごいなあと思いました。

けれども、けっきょく戦争がはじまってしまい、作造さんの願いはとどかず、残念だなあと思いました。

(佐々木泰我くん)

吉野作造記念館を見学して、吉野作造さんはどんなことをした人かや、どんな人が分かりました。作造さんはみんなが集まってみんなが決めるしくみ、民本主義を主張し、大正デモクラシーの中心となった人で、本当に国民全体が幸せになってほしいと考えていたんだなと思いました。

(鈴木満理奈さん)

古川高等学校見学会

2014年3月13日～18日

3月13日、14日、18日の三回に分けて、宮城県古川高等

学校の一年生240名の皆さんが見学に来ました。

見学に先立ち、当館の大川副館長は、マイケル・サンデルやアウンサンスーチーの発言を引きながら「政治参加とはどういうことか」をテーマに講演し、未来を担う若い高校生たちに、政治に対する問題意識を持つよう呼びかけました。見学後、頂いた感想の一部をご紹介します。



吉野作造さんは中学の頃の社会で学びましたが、古川出身ということはありませんでした。また、「大正デモクラシー」という言葉は知っていましたが、その意味などはよく考えたことがなかったのです。今回の講話は将来の日本について考える良いきっかけになると思いました。講話の中で特に気になったのが、参政権についてでした。よく考えると、現在の先進国と呼ばれるような国ではほとんどが、国民が政治に参加できるような参政権があり、国民が、政治において大きな役割を担っていると思います。しかし、日本では、その参政権において、選挙での投票率が減少してきているというのとても大きな問題であると思います。政治に対しておまかせの意識があるのは、本当の民主主義と言えるのか疑問に感じました。ですが、政治がだんだんと専門的になってきて、国民が政治について分からない、関心がないという状況になるのも分かります。これからは政治に対して関心を深めるため新聞やニュースなどに目を通し、また自分も選挙という形

で参加していけたらいいと思います。

(四組 四倉 若菜さん)

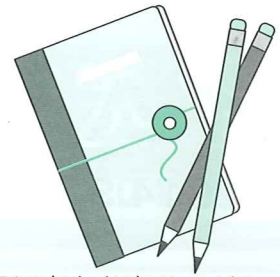
私は正直、吉野作造について関心が無かったが、実際に記念館に行ってみてその人物像を知ることができた。

彼は一生涯学問に励み、国民のために「民本主義」を唱えて世の中を変えようとした。堂々と自分の意見を曲げないその彼の姿勢は、彼の知識、努力、勇気を象徴しているのではと私は強く感じた。決して一般人にできる行動ではないと私は思う。そして、その行動力を私達も見習うべきであると思う。遠い昔の人のように思われた彼の思想が、現在まで受け継がれているのはとても凄いことである。

最後に、歴史に名を残す人達は皆、当時の社会情勢や背景にとらわれない自由な発想や強い意志があったのだと思う。今まで私は、そのような人が身近な人とは思っていませんでした。しかし今回の見学で、日本の歴史に名を残す人が身近にいたのだと実感することができました。

(二組 伊藤 立一さん)

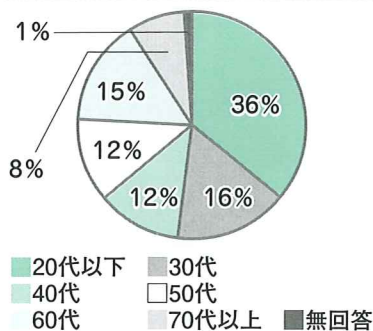
平成25年度 吉野作造記念館 アンケート集計結果のご紹介



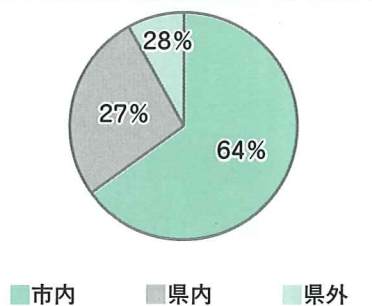
平成25年度に実施したアンケート内容の一部をご紹介します。
当館では今後も常時ご意見・ご感想等を受け付けておりますので、お気軽に声をお寄せください。

●集計数 131名（内訳：GW イベント21名、企画展13名、常設展22名、クリスマス会43名、講座18名、企画展14名）

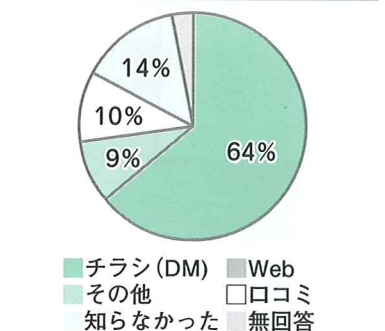
年齢を教えてください？



お住まいはどちらですか？



当館の情報を何でお知りになりましたか？



ご意見・ご要望に対する改善など ※抜粋

見学やイベントに参加してみたのご感想

- 古川で生まれ育った吉野先生は、正義と愛の人である。キリスト教との出会いの感動が分かったような気がする。吉野先生の自由と平等の教えは、時代の先をいっていると思う。朝鮮や中国への侵入などへの吉野先生の反対運動は、いつまで時がたっても正しいことが分かった。吉野先生は古川で生まれ育ったから優しい人格が身につけて、それで素晴らしい思想をみんなの為に、未来の為に、世界人類の為に遺すことができたのだと思う。素敵な町だ。
- 吉野・宮武・尾佐竹という個性あふれる三人を対象として展示できるのは吉野作造記念館ならではのことで。展示物も極めて貴重なものでありとても興味深かった。（企画展）
- 初心者にも、また史料に関心のある者にも対応した細やかで素晴らしい展示でした。私の地元にかかわる中国人脈と吉野のつながりを興味深く見せていただいた。（企画展）
- 吉野作造が中国に国家の平和にも尽力したことがうかがえ、人とのつながりも理解できた。資料を見ながら、難しかったけれど当時のことを知ることができ、良かったと思います。（企画展）
- この講座を受けて吉野に対するイメージ、中国に対するイメージが変わりました。これから、吉野のように他者に対し相手と親しくしようと努力し「他者性」をもって接したい。（吉野作造講座）
- 近年の中国外交に対する考えを知りたくて受講しました。吉野の民本主義は未だに輝きを失わず、今日の日中外交にも有効ではないかと思う。いろいろな資料を使って教えていただいたことに深く感謝します。（吉野作造講座）
- とても楽しく落ち着いた感じのクリスマス会だった。スタッフが全員サンタ帽で統一していたので、いっそうムードが盛り上がった。リース作り、音楽会素敵だった。（クリスマス会）

お客様のご要望に対する改善について

- 非常に興味深かった。宮城県出身の素晴らしい方がいたということをもっと周知して欲しい。
改善：これまで以上に、吉野博士の偉業や足跡を知ってもらえるよう出前講座をはじめとする発信事業を強化して参ります。
- とても良いと思う。今後もっと展覧活動を行って欲しい。
改善：当館では年間を通じて多彩な企画・展示等を開催しており、今後もさらに展覧活動の充実をはかって参ります。

のイベント

2014.3

2013・11・3

第14回 読売・吉野作造賞受賞者 秋田 茂氏 講演会



演題

『綿業が紡ぐ世界史
—日本郵船のボンベイ航路—』
2013年の読売・吉野作造賞は『イギリス帝国の歴史』で、大阪大学文化研究科教授の秋田茂氏が受賞しました。講演終了後はサイン入り受賞作を限定販売しました。

2013・5・5

GW イベント



▲寸劇『マコロンと妹ロボット』

毎年恒例の子どもの日イベント。職員オリジナルの寸劇や工作が人気です。絵画造形教室、子どもの人権を考える親子ワークショップなども開催されました。

▼外ではフリーマーケット



▲昔のあそびコーナー

親子ワークショップ



森田明彦尚絅学院大教授のワークショップは、絵を描きながら子どもの人権を考えました。

2013・9・21

わっくわく教室

子どもカルチャー事業。アクセサリー作家の新田亜紀子先生を講師に迎えてランタン作り。お昼は「ポットで作るかんたん料理教室」で蒸しパン作りを体験しました。

▼ランタン作りのワークショップ ▼ポットで蒸しパンが!?



ピカピカランタン
完成!



2013・6・1

JOYCEコンサート

「コンサートを通じて、より多くの人たちに親しまれる記念館に」と、女性5人のコーラスグループJOYCEと当館が共同開催しました。

クラシックやわらべ歌、映画の挿入歌などを熱唱♪



2013・12・22

クリスマスイベント

クリスチャンの吉野にちなんで企画されたイベントです。
サンタさんにプレゼントをもらって大喜びの子どもたちでした。

最後にサンタさん
から子どもたち全員へ、
素敵なプレゼント☆



▶ 寸劇『サンタとマコロンのゆかいな音楽会♪』



◀ クイズ『吉野作造と世界のクリスマス』



これまで

2013.4

2014・1・26

IVYyouth 講演会 「躍動する日本の若者たち」

主催 NPO 法人古川学人 **NPO事業**
共催 IVY youth
後援 大崎市 大崎市教育委員会



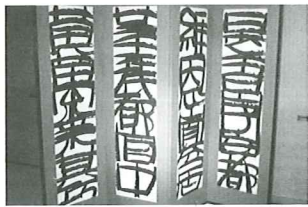
東北を拠点として、カンボジアでの教育支援を中心とした活動を展開する認定 NPO 法人・IVY (アイビー)。その下部組織である IVYyouth (アイビーユース) の方々を講師に招き、取り組みを語って頂きました。

伝統・文化・芸術振興事業 当館が共催した会場長期利用団体

2013・4・7~5・2

『鹿島台社友会写真展』

<企画展示室>



2013・9・3~2013・9・10

『高橋樹石の世界
没後15年遺作展』

<企画展示室>

石巻・川の上プロジェクト 支援事業

NPO事業

石巻市・川の上地域のまちづくり事業「川の上プロジェクト」と協力し、今後継続的な活動を展開していく予定です。同プロジェクトが主催する「イシノマキ・カワノカミ大学」には、当館職員と、古川高校の学術サークル「古川学人会」の高校生も参加しました。

休憩ラウンジ活用事業

NPO法人ハッピーート大崎 健康相談コーナー

2013・3・21~2014・3・31

当館共催事業です。
栄養士さんが食や健康について
お話してくれます。



二〇一三年三月〜二〇一四年二月

寄贈資料一覧

多くの方のご厚意を得て貴重な資料をご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

「順不同」
「敬称略」

〈資料名〉

『近代日本の官僚―維新官僚からエリートへ』他一点

『新東海道五十三次』他四点

『日本キリスト教団 仙台北教会二〇一〇年史』

『前田土佐守家資料館 所蔵品目録』

『日本思想史研究』第四四号

『歴史評論』二〇一三年二月号 他一点

改訂『資料カラー歴史』

『遠野学』VOL.2

『郷土たじり』第三五号 他一点

『押川方義とその時代』

『佐々木多門伝 世界と戦った風雪の英語人』

『近代日本の予算政治』

『わが歩みし道 南原繁』他三点

『仙台市史 通史編九 現代二』

『金子光晴とすごした時間』

『学士會会報』第九〇一号

『尾佐竹猛のアンケート回示二通』抜刷

『イギリス帝国の歴史』

『古川学人 吉野作造之碑』建立寄附名簿

『中華民国の誕生と大正初期の日本人』

『明治国家をつくった人々』

『みやぎの先人集 未来への架け橋』

『日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚』

『大正デモクラシー論 第三版』

『大学史紀要』第一七号 他一点

『仙台育英会五城寮 記念誌』

『吉野作造肖像写真』他一点

『みちのく春秋』

『仙臺郷土旬帖』

『宮城の歴史地理教育』第二二二号

『労使研』NO.152

『日本エッセヤント運動人名辞典』

『日本史研究』六一四号 他一点

『NPOJCNNEWS』NO.27 他一点

『An Imperial Path to Modernity Yoshino Sakuzo and a New Liberal Order in East Asia, 1905-1937』

『FORUM OPINION』

『佐藤一郎退任記念展』他一点

『稀代のジャーナリスト・徳富蘇峰』

『Voters』

『一木喜徳郎書軸「始」』

〈寄贈者〉

清水 唯一郎

井上 仙北教会

日本基督教団 仙台北教会

前田 土佐守家資料館

東北大学大学院文学研究科内日本思想史研究室

田澤 晴

濱島 雅書

平野 一雅

学野 東北学院

佐々木 紀

伏見 岳

竹中 英

堀木 正編さん

三橋 士

中央 論

思文閣 一

瀧井 閣

宮城県教育庁義務教務課指導班

国際日本文化研究センター

東京 大学 出版

明治 大学 資料センター

村木 智

大友 玲

井上 慎

渡邊 康子

宮城歴史教育者協議会

日本労働会館 労使関係研究協会

後藤 泰

手嶋 泰

NPO文化財保存支援機構

Jun'g・S・C・Z・E・D・C

NPO現代の理論・社会フォーラム事務局

佐藤 一郎

小嶋 一郎

財団法人 明るい選挙推進協会

菅原 翔也

ご寄附をいただいた
皆様のご紹介

公表のご了承を頂いた方のみ
ご紹介させて頂きます。

黒田 操様 後藤 昇様

齋藤 強一様 井関 純様

高柳 俊哉様 秋田 茂様

千葉 眞様 平野 一郎様

櫻井 滋郎様 佐藤 幸也様

猪木 武徳様 瀧田 典子様

横山 寛勝様 鈴木 晃子様

吉田 尚史様 須田 正子様

中川 美津様 佐々木 工様

高橋 秀夫様 佐々木 康雄様

菅原 裕子様 北岡 伸一様

大川 真様 吉野作造を
学ぶ会様

和泉 敬子様 (株)新日本商事様

加藤 晴彦様 安海のぞみ様

氏名非公表の方 一九名

合計一〇六四〇〇〇円
(平成二六年三月十二日現在)

ボランティアの
ご協力をいただき
ました皆様

大崎市ボランティア協会様
宮城誠真短期大学様
会田 征子様
遠藤 真輝様
佐久間 藍様

利用案内	開館時間	9時～17時(入館は16時30分まで)				
	入館料	区	常設展	企画展(常設展含む)		
		分	個人	団体(20名以上)	個人	団体(20名以上)
		一般	310円	250円	500円	400円
高校	210円	160円	300円	200円		
小・中	100円	80円	200円	100円		
休館日	月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日が休館日) 年末年始(12月29日～1月3日)					

吉野作造記念館
〒989-6105 宮城県大崎市古川福沼1-2-3
TEL 0229-23-7100
E-mail yoshino-npo.fg@blue.ocn.ne.jp
URL http://www.yoshinosakuzou.jp

株式会社 北都開発	株式会社 吉村商事	株式会社 美研	株式会社 佐藤酸素	株式会社 我妻建設
株式会社 光栄建設工業	株式会社 共同システムサービス	古川ガス株式会社	株式会社 chida	(有)若見自動車
株式会社 アクセス	株式会社 匠・和譜きたはま	(有)共栄システムズ	(株)丸ヶ工業	(有)門田工務店
株式会社 パパ好み松倉			(有)渡邊建材	HOKUTO